

(様式1) 実践事例

学校名	本宮市立和田小学校	校長名	岡部 智		
住所	本宮市和田字学校前1	児童生徒数	87	学級数	7
TEL	0243-44-2219	ホームページアドレス	wadasho@city.motomiya.lg.jp		

子どもの力を引き出し伸ばす教師力のUP

1 少人数指導の計画等

本校では、「子どもの人間力の育成」を学校経営の中心に据えて、知・徳・体・ふるさとを意識した教育活動を通して、教育目標の具現化に向け全職員で取り組んでいる。特に、「学校教育活動全体の中で言葉の力を育む言語活動の充実」を通し、少人数のよさを生かして、自分の考えをもち、生き生きと学び合う子どもを育てる授業づくりに取り組み、特に考える力を伸ばすこと、学び合う力を伸ばすことを重点としている。

2 実践の概要

研究主題を「一人一人の言葉の力と学び合う力を高める指導」とし、言葉の力を高めながら学力を伸ばす態度や力、自分の考えをもって友だちとかがわり合いながら学習を進める態度や力を育てることができるよう少人数教育のよさを生かした授業の工夫改善に努めている。

研究授業では、見る視点や分担を明確にし、児童の学びの姿を中心に行っている。事後研究会では、教職員で小集団に分かれての検討会を行い、子どもや指導者の姿からよかった点や改善点等について意見を交換し合い、付箋紙で模造紙に貼付しながら成果や課題について類型化し、全体で共有化を図っている。共有化の際には、事後研究会の内容の振り返りとよりよい授業にするための具体的な手立て等についても確認するようにしている。さらに、研究授業を通して学んだことや自分なりに考えたこと、疑問に残ったこと等を各自がまとめ、全員で交換することで教師の授業力の向上を目指している。また、講師招聘も積極的に行いながら、教師としての意識改革も含めて自己研鑽に努めている。

☆ 3年国語科「読んで感想を伝え合おう」の実践例

本時では、教材文(自然のかくし絵)の資料の写真を参考にしながら「問い」に対する「答え」を見付けることや、接続語や指示語の果たす役割をとらえさせることで、内容を正しく読み取らせた。

文末表現が「か」あるいは「でしょうか」等の疑問形の表現や「たとえば」等のキーワードに気付いた児童の発言を価値付け称賛した。児童の間違った発言に対しては、共感的に受け入れ生かすようにし、全体で考え思考の共有と吟味を図りながら



＜授業後の検討会＞



＜友だちと意見交流＞

全員が間違っただ理由を納得できるようにし、間違っただ児童もみんなの役に立てたという充足感をもたせるように配慮した。また、自分の考えをペアで話し合わせることを通して、考えた根拠を明確にして自分の考えを説明することができた。少人数クラスのため、ペア学習の時間の確保と教師の支援により、一人一人の発言の機会が増え、お互いの考えを学び合うことができ、一人一人の充実感につながっていたようである。

事後研究会で、特に話題になったことは、「問い」と「答え」の文の読み取りについて、能力差に応じた意図的計画的な支援が必要であること、習熟度別の学習を取り入れた授業づくり、少人数の児童だからこそできる授業づくりと教師の関わり等について協議し、よりよい授業にするための具体的な手立てを確認した。事後研究会を重ねるごとに、児童を中心にした授業づくりの視点や一人一人を大切にしたいきめ細かな指導の充実についての共通理解が深まっている。

3 実践の成果と課題

- このような教師の指導力向上に向けた取組や言語活動を重視した授業の実践の積み重ねにより、児童が課題に対する自分の考えを書いたり交流し合い、相手に伝えたりすることに対して意欲的に取り組む姿が見られるようになり、学習集団がさらに向上し、児童同士のコミュニケーションがより図られるようになった。
- 教師の全体での話合いやグループ討議、現職教育の実践の積み重ねにより、教師集団の向上とともに個々の教師自らが指導力を高めようとする意識が表面に表れてきている。また、少人数教育のよさについての理解が深まり、それが児童の学びの充実に、そして教師の指導力の向上に結びついている。
- 教師も児童も生き生きと学校生活を送り、児童は授業の中で自らの考えを表現し、伝える姿が見られるようになってきている。平成27年度全国学力学習状況調査やNRT学力検査の結果からも向上が認められる。
- 授業研究や事後研究会を通して学び合った内容をさらに共有化し、全体で実践していく体制づくりを継続して推進し、少人数教育の充実を図りたい。